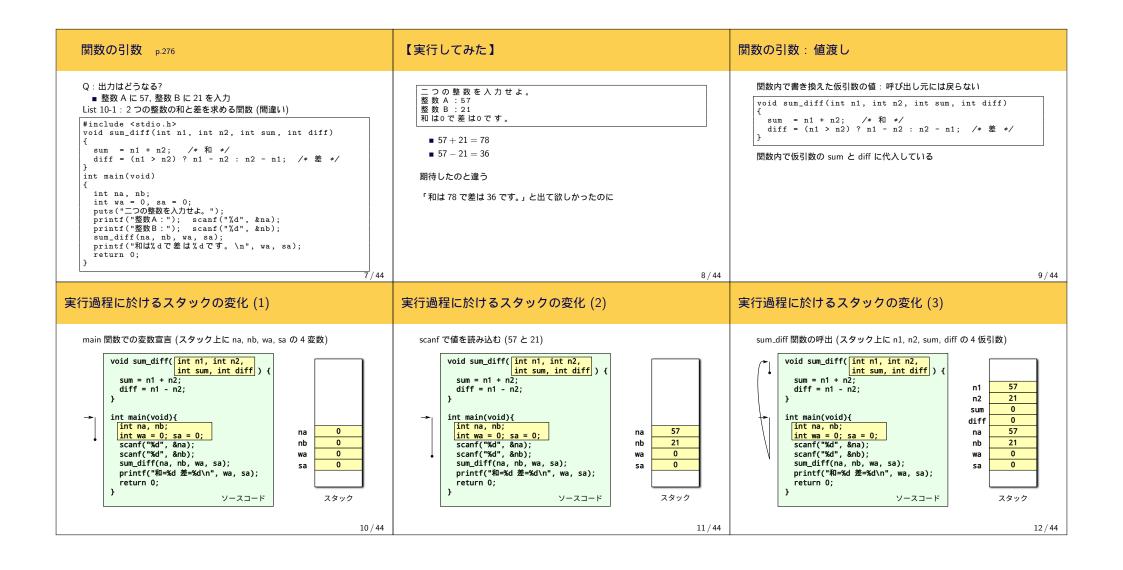
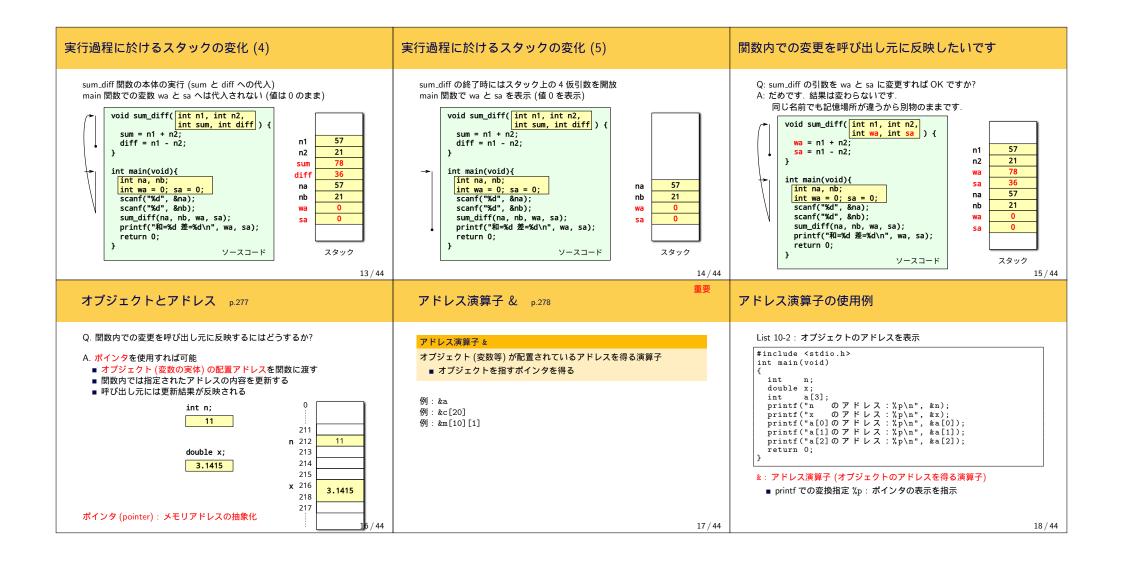
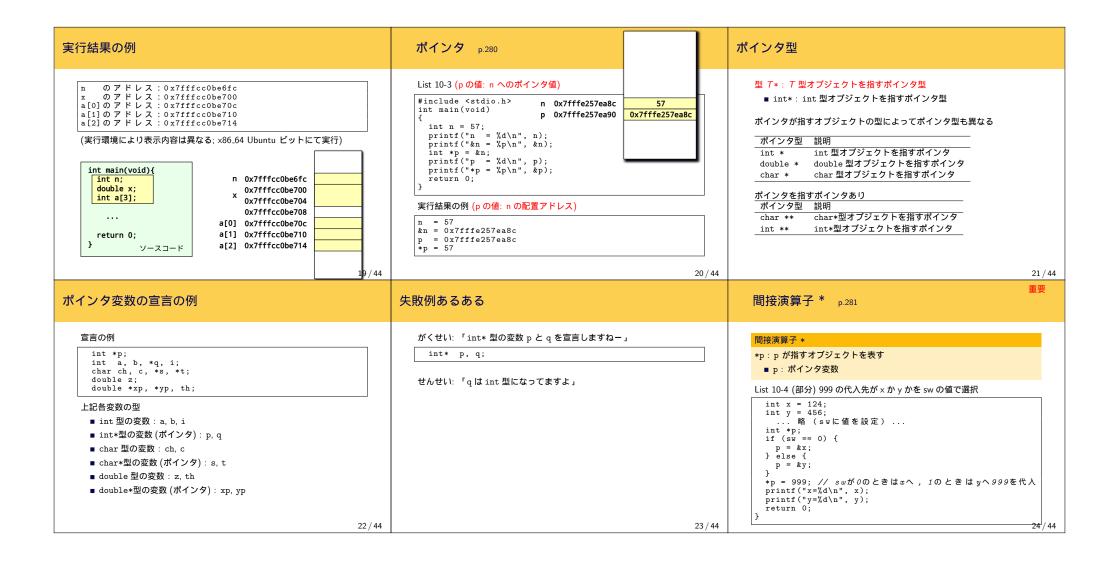
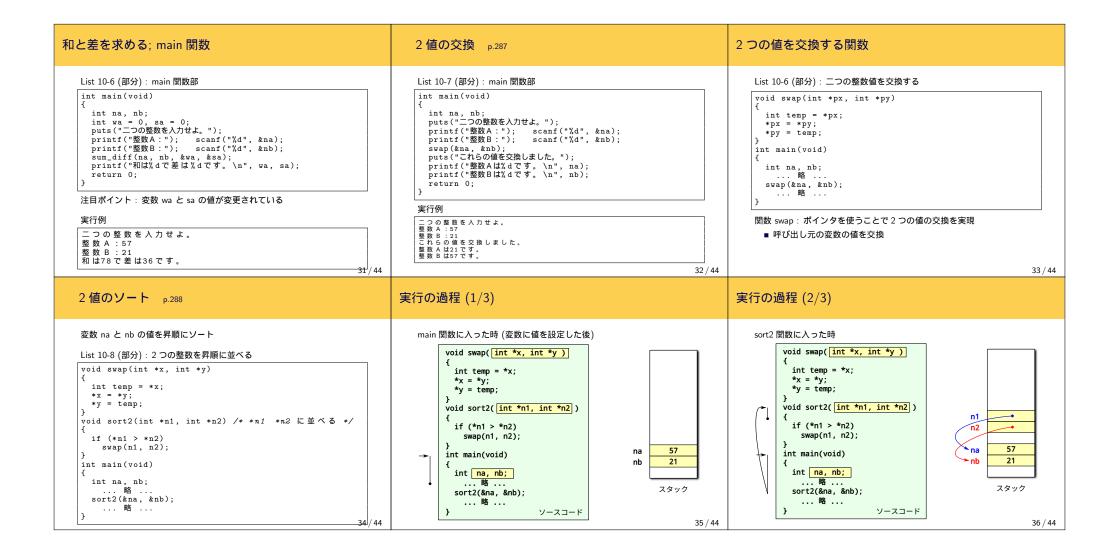
	もくじ	今回 (#07) の内容:シラバスでの該当部分
#07 ポインタの基礎 2022 年度 / プログラミング及び実習 III 角川裕次 ^{服谷大学 先端理工学部}	第 10-1 節 ポインタ2 第 10-2 節 ポインタと関数	小テーマ: ポインタの基礎 第 10 回: アドレス演算子とポインタ 第 11 回: ポインタを利用したプログラミング
1/44	2/44	3 / 44
重要概念リスト	今回の実習・課題 (manaba へ提出)	
■ ポインタ ■ アドレス演算子 & ■ 間接演算子 * ■ 空ポインタ NULL	実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出)	第 10-1 節 ポインタ
4 / 44	5 / 44	6 / 44

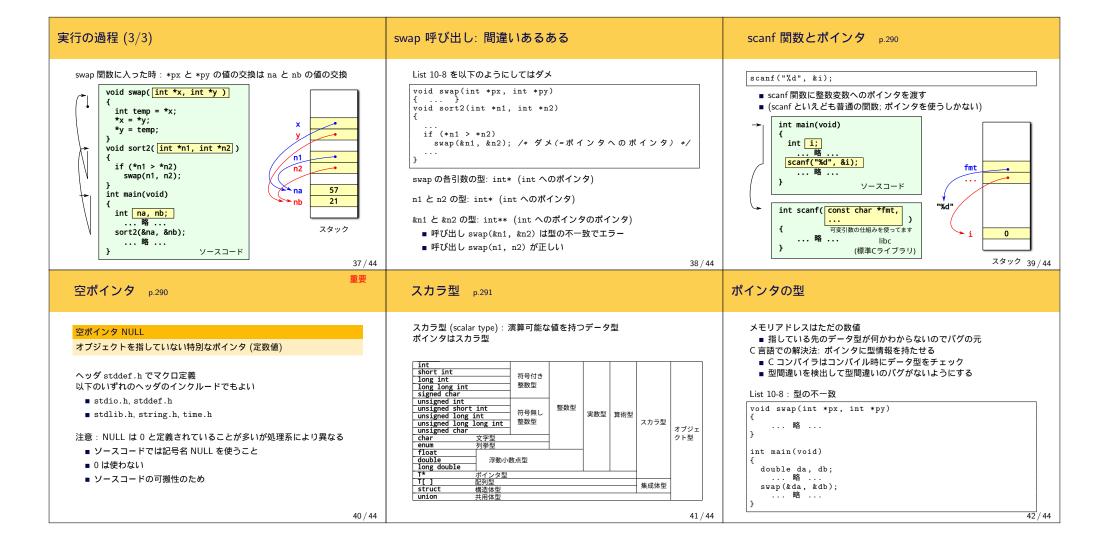






重要 重要 ポインタ変数の宣言と間接演算子の違いに注意 間接演算子: 代入文の左辺と右辺 間接演算子の使用上の注意 代入文の左辺の場合: *p = ...; の実行時に p はオブジェクトを指していること 変数宣言(初期化あり)の例: 右辺の値をポインタが指す先に書き込む ポインタ変数 p を宣言 もしそうでないと発生しうる困ること ■ アクセス可能なメモリ範囲外へのアクセス発生 *p =; int *p = &x;■ 値が変わっては困る変数の値の変化 代入文の右辺の場合: 駄目プログラム例:pが指すオブジェクトが不定 間違い理解: p が指しているオブジェクトに &x の値を書き込んで初期化 ポインタが指しているオブジェクトの値を表す int main(void) 正しい理解: p の初期値を x を指すポインタ値に設定 int x = 0; $x = \dots + *p + \dots;$ int *p; 以下と同じだと思いましょう *p = *p + 1; // pは何を指している??? printf("x=%d\n", x); return 0: int *p; p = &x; 変なメモリアドレスの内容を書き換えようとして自滅する場合あり Segmentation fault (core dumped) (そうならない場合もある; だからといって正しいプログラムではない) 25 / 44 26 / 44 重要 関数の引数としてのポインタ 0.284 和と差を求める関数 0.286 int 型変数に 999 を代入する関数を作りたい List 10-6 (部分): 和と差を求めてポインタにより呼び出し元に結果を反映 ■ 対象の変数は関数の引数で与えられる void sum_diff(int n1, int n2, int *sum, int *diff) List 10-5 (部分) ポインタを使ってこのように書く void set999(int *p) *sum = n1 + n2: *diff = (n1 > n2) ? n1 - n2 : n2 - n1; *p = 999; // 指定のメモリアドレスに書き込む 第 10-2 節 ポインタと関数 int main(void) int main(void) { // 呼び出し例 int na, nb; int x; set999(&x); // メモリアドレス(ポインタ)を渡す int wa = 0, sa = 0; (xの値は999に変化) ... sum_diff(na, nb, &wa, &sa); 略 失敗例:pへの変更は呼び出し元には戻らない void set999(int p) &wa: 変数 wa を指すポインタ p = 999;■ この値 (ポインタ値) が値渡しで関数へ渡される ■ &sa も同様 28 / 44 29 / 44 30 / 44





##